

米国大学と海外大学との共同・二重学位プログラムには多数の課題が存在 (11月12日)

米国教育審議会 (American Council on Education : ACE) は、米国大学と海外大学が実施する国際共同・二重学位プログラムに関する報告書「国際共同・二重学位のマッピング ～米国プログラムの概要と見解 (Mapping International Joint and Dual Degrees : U.S. Program Profiles and Perspectives)」を発表した。

本報告書は、ACE 調査に回答した米国大学 134 校からのデータに基づくもので、うち 89 校から共同・二重学位プログラムに関する詳細情報が得られたという。同報告書は、共同・二重学位プログラムはカリキュラムの国際化を実現するメカニズムとされることが多い一方で、現実とは異なるとしている。

例えば、これらのプログラムは、米国大学への留学生を勧誘する目的で利用されることが多く、共同・二重学位プログラムの 63%には外国人学生のみが在籍し、外国人学生と米国人学生の両方が在籍するプログラムは 34%、米国人学生のみが在籍するプログラムは 4%という。

また、海外大学に進学する米国人学生数が全般的に低い中、同プログラムにおいても同様の傾向が継続すると見られており、海外の大学で学ぶ米国人学生数増加が理想ではあるものの、現実的ではないと考えられている。さらには、単位認定過程に関する問題は、共同単位プログラムの 67%、二重単位プログラムの 41%が直面すると回答している他、学問の自由に関しては、全体では 78%の大学が問題ないと回答しているのに対し、中国でプログラムを実施する大学では、33%が問題ありと回答している。なお、これらのプログラムの提携国の 1 位は中国で、フランス、トルコ、ドイツ、韓国と続いており、専攻分野では、ビジネスもしくは物理・自然科学分野のプログラムが全体の約 60%を占めている。

なお、本報告書は、

<http://www.acenet.edu/news-room/Documents/Mapping-International-Joint-and-Dual-Degrees.pdf>からダウンロード可能。

Inside HigherED, 'The Ideal and the Real'

<https://www.insidehighered.com/news/2014/11/12/new-report-highlights-challenges-establishing-international-joint-or-dual-degree>